

寺子屋ガイド

※題字／森川芳聲

もくじ

- 2 巻頭言『小中一貫校「志明館」開校』……山口 秀範
- 3 教育雑感⑩……………白濱 裕
- 4 偉人レポート……………山本 充昭
- 6 橋を架ける⑦……………占部 賢志
- 8 迷える羊……………水崎 之子
- 9 やつぱり神様が好き(第四回)……元木 哲三
- 10 TERAKOYAふおとればーと
- 11 “あちこちde寺子屋”のご案内
- 12 碑のこころ(11) 編集余録



碑のこころ

香椎宮

福岡市東区香椎二丁目
香椎宮参道(勅使道)

※詳しく解説は12頁に掲載しております

小中一貫校「志明館」開校

代表世話役

山口秀範

四

三 喫むお茶を道へと高め 礼節の
心伝へし 利休に学ぶ
志明館友 発憤を競へ
四 国難の 蒙古襲来 迎へ討ち
勇を奮ひし 武士の末
志明館友 未来を担はむ

構想から十六年目の入学式

四月九日、小学一・二年生四十二名の入学式が
挙行されました。平成二十年五月十四日に石村萬
盛堂会議室で「第一回日本一小学校設立委員会」
を発足して十六年、数え切れない障碍を乗り越え
この日を迎えました。これまで様々な応援、励ま
しをお寄せくださった多くの皆様に心から感謝申
し上げます。

今から八年前には既に校訓「和誠礼勇」の原型
が組上に乗っていました。歴史と伝統を踏まえた
上で、これからの日本人が身に着けるべき資質は
何かを徹底的に検討し、次の「四要素」が浮かび
上がったのです。

和：自立心旺盛にして周囲と睦み相和する心
誠：恥を知る矜持と己も他をも欺かぬ相互信頼
礼：万物に感謝し謙虚・簡素に振舞う心身の構え
勇：邪に對峙し逆境に怯まぬ猛き気概

かくして「校歌」一々四番のテーマは自ずと決
まり、その徳目を実践した偉人に肖らむとの詞に、
公募を経て曲が整えられました。

志明館校歌

作詞 山口秀範
作曲 武澤陽介

一 睦むこと容易からざる人の世に

和の憲法立てし太子を仰ぐ

志明館友しなやかに尖れ

二 逆境を 誠一筋乗り越えし

維新の先駆 松蔭慕ふ

志明館友小倉に集へり

入学式では全教職員が祝福を込めて生徒に披露
しました。列席して校歌を聴いた父母祖父母の中
には、胸の高ぶりで目頭を押さえる向きもあつた
由、五月の開校記念式典では子供たちの校歌斉唱
が楽しみです。

忘れてはならない人々

例えば、十四年に亘る海外勤務を経て東京に戻
り、日々通学する子供たちの、世界一つまらなさ
そうな表情に出会ったのが、教育再生を目ざす
契機です。丁度三十年前のことでした。更に遡れ
ば一九七〇年の日米安保改定を巡る大学紛争の時
代に、「日本人として生きる」道へ導いてくださつ
た小柳陽太郎先生に師事したご縁が全ての出发点
でした。

加えて、同志と呼べる友人たちと半世紀に及
ぶつき合いを深めたことは実に幸運でした。特
に寺子屋モデルの構想から立ち上げまで、物心
両面で親身に協力を惜しまぬ友情のお陰で今日
があります。

そして何と言つても、博多学園理事長・八尋太
郎氏との意気投合は、志明館開校の決定的な出会
いでした。当初は新規に学校法人を作ろうと意気
込んでいましたが、広く寄付を集めながら学校設
立を議論むというやり方ではきつと途中で挫折し
ています。自ら退路を断つて開校を目ざした彼の
志こそがこのプロジェクト遂行の原動力です。

「二人で立ち向かったから途中で諦めずに実現し
た」と八尋氏は言っていますので、小生の存在価
値も認められているようです。

次の一手

開校にあたり各方面からお褒めの言葉を頂戴し
ていますが、漸く出発点に立った訳で構想通りの
学校になるよう今からが真剣勝負です。①教師の実
力増進、②「チーム志明館」の士気を上げる、③保護
者の啓蒙、④募集活動、⑤学校施設・教育充実・奨
学金整備等のための寄付集めと、取り組むべき課
題は目白押しなのです。

それと並行して、第二第三の志明館を全国各地
に飛び火させて行く活動にも取り掛からねばなり
ません。その動きを広げることが日本の教育再生
の本丸なのですから。

拙詠

小中一貫校「志明館」入学式

前日の冷たき雨を持ち越さず陽光あふるる朝を迎へし
常よりも開花遅れし桜花この日寿ぎ枝に留まる
日の丸と校旗掲ぐる会場へ今進み入る新入生は
お揃ひの紋付袴に身を包み緊張気味に席に着きたり
「良く学び良く遊べ」との校長の式辞に聴き入る父母も祖父母も
来賓のテーブル上には師と友の遺影飾られ見守り給ふ
教師らと父母に加へて支援者の三位一体子ら育まむ
思ひ込め言葉紡ぎしこの校歌我ら挙げて初披露せり
校訓の「和誠礼勇」に因みたる偉人四人に肖る詞なり
十六年紆余曲折のあれこれの浮かびかつ消え現へ戻りつ
志立つれど遂げぬ事多きこの世にありて我が志叶ひぬ
支へ来し数多の人と神々のご加護ありてとしみぐ思ふ
ここまでは漕ぎつけたれどここからがいよいよ本番抜かるべからず